

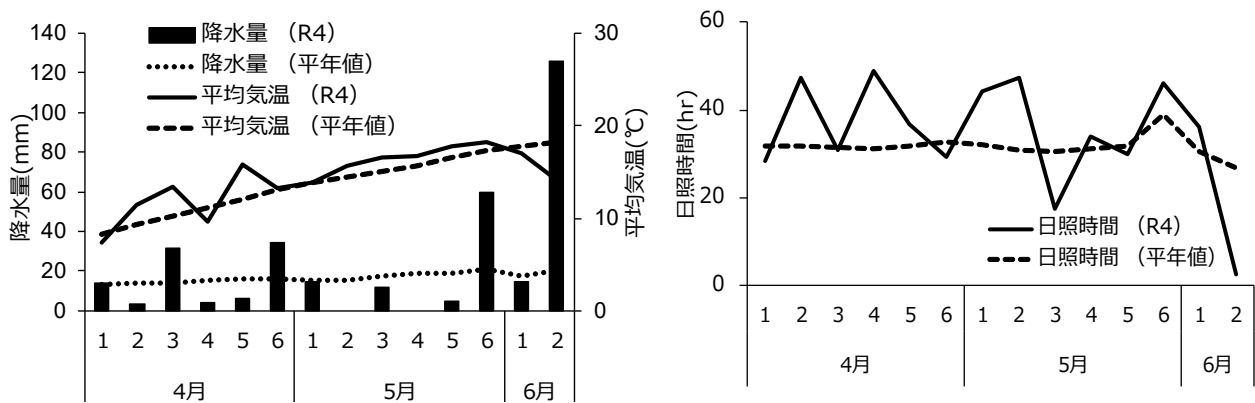
仙台稲作情報2022（第2号）

宮城県仙台農業改良普及センター TEL：022-275-8410 FAX：022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail：sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷適正な水管理で、分けつの発生を促進させましょう。
- ▷雑草の発生状況を確認し、防除が遅れないようにしましょう。
- ▷いもち病の発生源となる補植用残苗は速やかに処分しましょう。

1 気象経過



2 管内の播種・田植えの状況

(1) 播種状況

「盛期」は前年より4日遅く、平年より2日遅い4月14日となりました。気温の高低差が大きい時期があり、一部で苗立枯病害の発生が見られましたが、生育は概ね順調でした。

(2) 田植状況

「盛期」は前年より3日遅く、平年より1日遅い5月11日となりました。風の強い日がありましたが、作業は概ね順調に進みました。

表1 管内の播種及び田植状況

管内全体	播種状況			田植状況		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
本年	4/3	4/14	4/24	5/3	5/11	5/23
前年差	前年並	4日遅い	1日早い	前年並	3日遅い	前年並
平年差	1日早い	2日遅い	1日早い	平年並	1日遅い	1日遅い

※「始期」は作付見込み面積の5%、「盛期」は50%、「終期」は95%が進行した時期

※「平年差」は前5カ年の平均値との差

3 管内の生育状況

- 管内の主力品種である「ひとめぼれ」は、草丈が26.4cm（前年比91%，平年比92%），茎数が181.4本/m²（前年比65%，平年比74%）となっています。葉色も34.1と（前年差マイナス8.4，平年差マイナス6.9）と淡く経過しています。
- 全体的に，6月上旬の低温及び日照不足の影響により生育が停滞しています。特に，田植えを5月後半に行ったほ場ではその影響が大きく見られます。

表2 6月10日生育調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/15	25.8	87	91	98.3	49	59	28.8	-10.7	-9.4
	北部平坦	大郷町鶴崎	5/16	25.5	97	96	139.1	68	60	34.9	-8.2	-5.5
	西部丘陵	仙台市泉区	5/11	27.9	87	89	306.9	79	104	38.5	-6.4	-5.9
	管内平均			26.4	91	92	181.4	65	74	34.1	-8.4	-6.9
ササニシキ	北部平坦	大和町鶴巣	5/12	27.2		98	119.1		38	34.1		-11.2
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/7	29.2	101	98	141.8	66	71	35.3	-4.7	-2.9
	管内平均			28.2	101	98	130.5	66	54	34.7	-4.7	-7.0
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5/20	26.6	91	90	84.3	74	49	27.1	-11.3	-11.2
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	35.4			142.7			37.0		
	管内平均			31.0	91	90	113.5	74	49	32.1	-11.3	-11.2
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/18	25.2			73.1			29.5		

※平年比差は，直近3か年の平均値。ただし，大和町鶴巣「ササニシキ」は，前年（R3）の調査を実施していないため，平成30年から令和2年までの3か年平均。

4 本田管理

移植栽培

(1) 水管理

- 6月3日～12日頃まで平年を下回る気温となり，茎数の増加が緩慢となっています。分けつを促進させるために低温時以外は2～3cmの浅水として水温・地温の上昇を図りましょう。
- 「だて正夢」，「金のいぶき」は，茎数が確保しにくい品種です。適正な水管理で分けつを促進させましょう。
- 低温（平均気温が概ね14℃以下）の時は，水深5～6cmの深水としましょう。
- 自然落水したまま田面が露出しているほ場が散見されます。こまめに見回りして適切に水管理をしましょう。
- 生わらなど有機物を施用したほ場では，時々落水して土中への酸素供給とガス抜きを行い，根腐れを防止しましょう。

(2) 病虫害防除

① いもち病

- ほ場に補植用残苗が散見されます。本田でのいもち病の発生源になりますので，裏返す等，直ちに処分しましょう。
- 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は，6月中下旬に水面施用剤を散布しましょう。

- ・「金のいぶき」はいもち病に非常に弱い品種なので、箱施用剤に加え水面施用剤による2回防除（6月中下旬及び7月中下旬）を実施しましょう。
- ・「BLASTAM（ブラスタム）」が病害虫防除所のサイトで5月20日から公開されていますのでご利用ください。 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

【BLASTAM（ブラスタム）とは】

アメダスデータを基に葉いもち感染好適日を推定するシステムモデルです。いもち病の胞子が発芽、感染するためには次の条件が必要です。

- 1.葉面湿潤時間が10時間以上
- 2.葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃
- 3.前5日間の平均気温が20℃～25℃

これら3つの条件が全て満たされると、いもち病の感染に好適な条件となります。感染好適条件が連続し県内広域で出現した場合、約2週間後に葉いもちの発病の増加が始まります。**水田を見回り発生に注意してください。**

②イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ

- ・病害虫防除所発表の発生予報第3号（5月27日発行）によると、イネドロオイムシの発生量は「平年並」、イネミズゾウムシの発生量は「やや多い」と予報されています。
- ・稲が小さいうちに加害されると被害が大きくなります。箱施用剤を使用しなかった場合は、以下の要防除密度を参考に防除を行いましょう。

【要防除密度】

- イネドロオイムシ 成虫密度が100株当たり25頭または産卵最盛期（6月上旬予想）の卵塊密度が100株当たり80個
- イネミズゾウムシ 畦畔際2m程度の成虫密度が100株当たり140頭

（3）雑草防除

- ・残草がある場合、雑草の種類、除草剤の散布期限（ノビエの葉齢や収穫前日数）を確認し、中・後期剤の使用を検討しましょう。
- ・水田内のヒエやホタルイ類の雑草が目立つほ場があります。これらの雑草は稲の出穂前にカメムシ類を水田に呼び寄せます。葉齢を確認し、適切な剤を適期に散布しましょう。
- ・斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、6月中旬までに休耕田や土手・畦畔等の除草に努めましょう。

乾田直播栽培

令和4年度から仙台市若林区荒井に直播普及展示ほ（乾田直播）を設置し、生育調査を実施しています。

（1）生育状況

苗立数は142本/m²で、目標の100本/m²に達していました。6月10日の生育調査では茎数が228本/m²となっており、6月上旬の気温が低めに経過したものの、苗立数が十分であったため、茎数は概ね確保されています。

表3 生育調査結果

場所 (地帯区分)	播種日 (月/日)	出芽日 (月/日)	苗立数 (本/㎡)	苗立数 (%)	6月10日	
					草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)
仙台市若林区 (仙台湾沿岸)	4/10	5/11	142	78.8	19.1	228

※品 種 ササニシキ

※播種量 5kg/10a

※苗立数 稲が4葉期前後になった6月3日に調査



6/10 生育状況

(2) 今後の栽培管理

①雑草防除

水田を見回って雑草の発生状況を確認し、雑草が小さいうちに除草剤を散布しましょう。除草剤の選定に当たっては、雑草の種類や葉齢、使用時期（「ヒエ何葉期まで」、「稲何葉期以降」等）を確認し、適正に使用しましょう。

②水管理

- ・分げつを促進するため、水深2～3cmの浅水管理とします。
- ・低温（平均気温が概ね14℃以下）の時は、水深5～6cmの深水としましょう。
- ・生育が過剰になると予想される場合は、倒伏や病害の発生が懸念されるため、落水管理を検討しましょう。

【水稲乾田直播栽培勉強会】

仙台市若林区荒井に設置した直播普及展示ほを会場に、今年4月から水稲乾田直播栽培の勉強会（月1回）を開催しています。次回は6月22日（水）午後1時30分に開催しますので、ご興味のある方はご参加ください。

会場の場所等詳しい内容につきましては、仙台農業改良普及センターまでお問い合わせください。

5 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（6/9 仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。
- 1週目は冷たい空気の影響で気温が低いですが、2週目は暖かい空気が流れ込みやすいため気温がかなり高くなる可能性があります。期間の前半は気温の変動が大きい見込みです。

■農薬危害防止運動が始まりました（令和4年6月1日から令和4年8月31日まで）

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は、農林水産省消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

次回の稲作情報第3号は、6月20日に実施する生育調査の結果をもとに6月21日頃の発行となります。